



食べて！栄養豊富な金芽米

J Aしまねやすぎ地区本部で生産を始めた金芽米が6月16日、近藤市長に披露されました。金芽米とは、米の金芽（胚芽の基底部）と亜糊粉層（表層部のうまみ層）を残した、栄養とおいしさを両立した米です。米穀メーカーの東洋ライス株式会社が開発、山陰では初めての生産拠点となります。

生産を行うやすぎ地区本部精米センター加藤正直所長は「金芽米は）健康によく、味もよい。ぜひ地元の方に広めていきたい」と話していました。



▶中国電力の古林島根原子力本部長（左）に意見を伝える近藤市長。

廃炉に関する意見書を提出

4月に認可された島根原子力発電所1号機の廃炉計画について、近藤市長が6月27日、中国電力株式会社に対し、廃止措置を実施することを了解するとともに意見書を提出しました。これは今年2月に出雲市・雲南市とともに締結した協定に基づいた措置であり、市民の安全を守るため意見を述べる事ができるものです。

近藤市長は「電力会社に対してはちばんに求めることは市民の安全。廃炉は長期間の取り組みになるが慎重に取り組んでほしい」と話しました。



▶近藤市長（右）が金芽米を試食。「味がしっかりしている」と好評価。

「安来を好きになりたい」

「まずは安来のことを知って好きになりたい」と抱負を話すのは、6人目の地域おこし協力隊員として赴任した越野貴義さん（40歳）。今後は観光振興業務に携わり、情報発信やおもてなし活動に取り組みます。

松江出身の越野さんは東京に進学後、20数年間、自身の音楽活動や音楽業界で活躍。「昨年参加した島根県のイベントで地元の良さに気付き、戻る気持ちが強くなった」と話します。これから3年間、隊員としてUターン者の視点で活動します。



▶操法に真剣に取り組み出場選手の皆さん。

速さと正確さを競う操法大会

万が一に備えて技術を競う消防操法大会を6月11日、中海ふれあい公園（仮称）で開催しました。ポンプ車の部と小型ポンプの部に分かれ、参加チームは仲間の声援を受けながら、日ごろの訓練の成果を発揮していました。優勝は能義分団（ポンプ車）と井尻分団（小型ポンプ）。

能義分団の村社悠紀さんは「4月下旬から週3回、練習してきました。自分は80点の出来栄でしたが、他の人は100点でした」と息を切らしながら話してくれました。



▶7月3日に近藤市長から委嘱状が手渡されました。

